

カルメル 霊性センターニュース



宇治カルメル修道院
聖ヨゼフと幼きイエズス像

2019年3月

351号

目次

目次	1
心の泉	3
カルメル会の企画案内	27
東京	28
名古屋	33
京都	34
北陸	36
諸所の企画案内	37
通信深読お申込みのご案内	49
郵送お申込みのご案内	50
編集後記	51



宇治カルメル修道院 黙想の家

心の泉



宇治カルメル修道院 聖母子像



第三卷

第十八章 地上の患難を、キリストの模範に従って平静に耐え忍ぶ

3 キリストは命

主よ、私とすべての信者たちに、永遠のみ国に至る、まっすぐで安全な道を教えてください。あなたに、私はどのように感謝の意を表したらよいでしょう！あなたのご生活は、私たちが歩まねばならない道です。私たちが聖なる忍耐の道を歩み続ければ、永遠の栄冠であるあなたに、至ることができるでしょう。もしあなたが、私たちに先立って教えてください。誰があなたに従おうと心がけたでしょう。ああ、そのすぐれた模範を仰がなかったら、どんなに多くの人々が、背後遠く取り残されたことでしょうか。私たちは、あなたがおこなったすべての奇跡と教えとを聞いたのに、まだこれほど生ぬるいのです。それならば、あなたに従うために、これほどの光が与えられなかったら、果たして私はどうなっていたでしょう？》

第十九章 侮辱を耐え忍ぶことと、まことの忍耐

1 主

《子よ、何を言うのか？私と聖人たちの受難を考え、つぶやくのをやめなさい。「あなたはまだ血を流すほど抵抗したことがない」(ヘブライ 12・4)。多くの困難を忍び、強い誘惑を受け、ひどく苦しめられ、さまざまな試練で鍛えられた人々と比べれば、今のあなたの苦しみは物の数ではない。他人の苦しみを考えなさい、そうすれば、あなたは小さい苦しみを、容易に耐え忍べるようになる。もしそれが、あなたにとって小さい苦しみだと思えないなら、それはあなたの忍耐が足りないからだと思いなさい。あなたの苦しみが少なくても多くても、すべてのことを忍耐しなさい。》

2 忍耐は知恵

苦しみを受ける覚悟を強めれば強めるほど、知恵は深まり、功德は大きくなり、心が鍛えられて重荷は軽くなる。あなたは、「あんな人間からこんな扱いを受けるのはたまらない。私はこんな侮辱を受けるはずがない。あの人は私に大損害をかけ、思いもよらぬことで私を責めている。ほかの人間から受け、当然忍ぶべき事柄ならば、喜んで忍び、忍ぶべきだと思える」と、言うてはならない。こういう考え方は、まことにおろかである。忍耐の徳とは何かを思わず、誰から報いを受けるかも顧みずに、むしろ受けた侮辱、侮辱を与えた人間、どんな侮辱を受けたか、それだけを考えている。



今年は3月

6日は灰の

水曜日。典礼は復活祭までの40日間四旬節にはいります。

「どうして、十字架を担えば途中でくじけてしまう、などと恐れているのですか。イエスさまも、カルワリオへの道すがら、なん度も倒れられたではありませんか。それなのに、か弱い小さな子供でしかないあなたは彼にあやかろうとはしないのですか。必要なら百度でも倒れ、そして倒れる前よりもさらに勇気をこめて立ち上がり、主に対する愛を証したいと思いませんか」 リジューのテレーズ*

嵐の中を雄々しく飛ぶ鷺のような英雄的行為を、私たちはどこか望んでしまいます。苦しむときには“格好よく”苦しみたいと思います。そこには自分の内に英雄を崇拜しようとする危険が潜んでいるようです。テレーズは弱い者として苦しむことが神の期待を決して裏切らないだけでなく、神の子キリストは弱々しく苦しまれたことを私たちに思い出させ、弱さの体験を通して、一瞬一瞬ひたすら神の慈しみに信頼することを教えてくれます。

「相変わらず主はあなたを十字架にかけておられるようですね。聖パウロがコロサイ1・24で言うように、あなたもまた、いわばキリストの人性の延長なので、あなたのうちで主はご受難の延長として苦しまれます。それであなたの苦しみは、どんなに多くの人々を救うことができるのでしょうか。活動による使徒職のうえに、あなたは苦しみの使徒職をも果たしているのです。」～三位一体のエリザベト～

伊従信子 (いより のぶこ)
ノートルダム・ド・ヴィ

* 『弱さと神の慈しみ』伊従信子 サン・パウロ社

* 『神はわたしのうちに、わたしは神のうちに』178p
伊従信子、聖母文庫、聖母の騎士社

創造主への賛美（18）

くのり
九里 彰

知性的認識を超えた理解は、「悟る」という言葉となる。奥村一郎神父は、こう述べている。

（この語は）、特に禅語として用いられるが、「知る」「分かる」とは、また別の意味がある。単に「深く分かる、知る」というだけではない。まず、「悟る」というのは、頭や知性による認識ではなく、全身全霊をもって体得することである。…仏教語では、「悟り」は「覚」とも書かれる。真理の「自覚」「覚醒」のことである。（『断層』、「知る」と「分かる」と「悟る」）

また他の著書（『神とあそぶ』）の中で、興味深い指摘をしている。小学校で先生が「氷がとけると何になる？」と質問したところ、ひとりの生徒が「春になる」と答えたそうである。師は、これを単に面白い返答とするのではなく、そこに常識や科学的真理を超えた真理を見る幼子の心を見ている。そして次のように、知性偏重の傾きに警鐘を鳴らしている。

このような現代的思潮の危機の指摘は、西欧においてはすでに新しいことではない。世界的に著名なドイツの哲学者、ハイデッガー（1889～1978）は、その珠玉の名著『放下（Gelassenheit）』の中で二つの思考、すなわち「計算思考」と「瞑想思考」とを区別する。前者において異常なほど発達した現代において失われたものは、人間にとってもっとも大切な後者の思考、「瞑想思考」であるという。しかも、その思考の源流は東洋古代の靈性に見いだされるとして、仏教的瞑想思考に焦点をあてている。（「氷がとけたら」）

真理に対してだけではない。物や植物や動物や人との関係においても「計算思考」ばかりが発達し、心と心の出会いがなくなりつつある。大量生産、大量消費の社会の中で、物ばかりでなく、植物や動物そして人間さえも使い捨てとなっていく。思い出がつまったさまざまな物を大切にすあまり、「ゴミ屋敷」になっても困るが……。

（続く）



十字架の聖ヨハネのこぼれ話（133）

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

「十字架の聖ヨハネの本質的で深遠な解説」（10）

これが、二つの歌の実質です。ここに示されたこの実質から、人は、この後に来る詩や詩句のより詳しい説明においてなされる内容を、直観します。今回は、失望させません。

解説を始めると、まさにアシジの聖フランシスコに出会います。歌の中で言われたすべてのものは、「愛する方ご自身であり、彼女（靈魂）にとってもそうである」（CB14-15,5）ということです。そしてそれは、どのようにそうなのか、またどうしてそうなのかについて、こう答えます。「なぜなら、同じようなあふれるような神との交わりにおいて、靈魂は、『私の神よ、私のすべてよ』という聖フランシスコの言葉の真理を体験し、知るのである」（同）。神は、「靈魂にとってすべてのものであり、かつ、これらすべてのものが含む善である。…これらのすべてのものの偉大さのおのおのは神であり、それらを集めたすべてのものも神である」（同）。

この場合、靈魂が「光の内にもものを見る、あるいは神の内に被造物を見る」ことが重要なのではなく、「その所有（訳注：神との一致）において、靈魂にとってすべての物が神であると感じる（体験する）こと」なのです。それは、至福直観でもなく、「強く、豊かな交わり、神ご自身がどのような方であるかを垣間見せる光であり、それによって、靈魂はすべてのものの善を感じるのである」（CB14-15,5）。このように読者が、解説者である聖人よって、彼が書こうとしていることを誤った概念で読まないように教授された後に、詩句の解説が始まるのです。

（続く）



年間 第8主日 C (ルカ6：30-45)

**「善い人は良いものを入れた心の倉から良いものを出し、
悪い人は悪いものを入れた倉から悪いものを出す。」**

年間第8主日の典礼は、私たちの外面の行いと内面の生活との間の関係、皆が見ることができるものと神がご覧になるものとの間の関係に大きな洞察力を与えてくれます。私たちの中にあるもの、善悪は、私たちの言葉や行いに表れます。：

「善い人は良いものを入れた心の倉から良いものを出し、悪い人は悪いものを入れた倉から悪いものを出す。」

お互いの内面生活を見ようとするとき、私たちは盲人の道案内者のようだ、イエスは指摘します。「盲人が盲人の道案内をすることができようか？二人とも穴に落ち込みはしないか？」私たちは道案内をする以前に見ることができなければなりません。しかし、私たちが見がちなのは他者の小さな過ちで、それをどれほど見がちでしょうか。自分自身の大きな過ちは見えないままであり、また少なくとも自分自身の過ちを見たり正直に認めようとするのは非常にむずかしいのです。イエスは私たちにたずねます。「あなたは、兄弟の目にあるおが屑は見えるのに、なぜ自分の目の中の丸太に気づかないのか？」私たちを見えなくするのは私たちの自尊心であり、自分が他者より優れたものであると考えたいことにあります。羞恥心と自信のなさが私たちの視力をゆがめます。これらは原罪の継続している結果です。私たちはまだイチジクの葉の後ろに隠れ、神はご覧にならないと考えて他者を非難するのです。

マリア様への日々の祈りの中で、私たちは「あなたの信仰で私たちの心の目を開いてください」と祈ります。マリア様は私たちを盲目から光に導く方法をご存知です。マリア様は私たちの中に住んでいらっしゃるイエス様へまっすぐ連れて行ってくださいます。マリア様は、イエス様が私たちをご覧になっているのを私たちが気づくように助け、私たちが罪深いにもかかわらず、私たちを知り、愛し、待っていてくださいます。イエス様への道は愛です。人を先入観で見たり、全ての隣人の目から全てのおが屑を取り去る必要はありません。他者をイエス様の目で見始め、イエス様の心で愛し始めると、私たちは目のみえる道案内者になります。多くの人が霊的に盲目である砕かれた世界の中で、私たちの働きはイエス様の癒しの手によって彼らを導くこととなります。イエス様の救いの、癒しの働きを共にするように呼ばれているなんて、何という素晴らしいお恵みでしょう。

(Sr. Paulina)

四旬節 第1主日 (ルカ4:1-13)

洗礼を受けたイエスは、聖霊に導かれて荒れ野に行き、四十日間の断食を実践しました。イエスのこの模範は、洗礼を受けた私たちの生活もまた、聖霊に導かれ、かつ、悪霊と戦う生活であることを教えてくれています。

洗礼を受け、聖霊を注がれ、「あなたはわたしの愛する子である」という父の声を受けた私たちは、悪霊から離れ、神の愛に導かれる者となりました。それは、洗礼を受けるときに「悪霊を退けます」と答えたところにも示されています。

四旬節は、このイエスの模範に倣い、あらためて自分と聖霊の関係、自分と悪霊の関係を振り返る時だといえます。実は、聖霊がいつも共にいて、私たちに神の愛を注いでくださっているように、悪霊もいつもしつこく誘惑しているのです。悪霊は私たちを神から離し、信仰と愛を生温くさせ、最終的には嫉妬や高慢、恐れで私たちを醜く変貌させようと試みてきます。ごく小さな隙を見つけては誘惑し、私たちの心を信仰と愛から離れさせ、怠け心や欲望をあおり、自己中心にさせ、いつの間にか高慢で嫉妬深く、小さな人間にさせてしまうのです。そして、さらには家庭や共同体を分裂させたりします。この世にいる限りいつも誘惑はやってきます。

荒れ野は、そのいつもやって来る誘惑に気づき、誘惑を見破るために祈りをする場、靈感を研ぎ澄ませる場です。荒れ野の四十日に倣う四旬節も、日常の中で気づかずにいる誘惑を見破る訓練の期間です。祈りをすることで、自分がいかに甘かったか、ガードが緩かったかに気づき、回心し、赦しを願いながら再武装する期間です。

キリストは御言葉という武器で悪魔と戦いました。「人はパンだけで生きるものではない」、「あなたの神である主を拝み、ただ主に仕えよ」、「あなたの神である主を試してはならない」と聖書の御言葉を盾にして悪魔の攻撃を防ぎました。

第二朗読のローマの教会への手紙でパウロは言っています。『「御言葉はあなたの近くにあり、あなたの口、あなたの心にある。」これは、わたしたちが宣べ伝えている信仰の言葉なのです。』(ローマ 10・8)。聖書の御言葉が近くにあり、口にある、心にある。これこそキリスト信者の最大の武器ではないでしょうか。

たしかに、私たちはキリストではありませんから、弱く、すぐに罪に屈してしまいます。しかし、洗礼を受けキリストに属する者になったのですから、少しずつ訓練して靈感を研ぎ澄まし、御言葉を口と心に宿らせ、悪の誘惑を退けていきましょう。復活によって完全に勝利するその日まで、キリストに従って十字架を担いましょう。キリストは共にいて助けてくださいます。悪に勝利されたキリストが一緒なのですから大丈夫です。キリスト中心の信仰に立ち返りましょう。

(今泉健神父)

四旬節 第2主日 C

(ルカ9 : 28 b - 36)

「これはわたしの子、選ばれた者。これに聞け。」

四旬節の第二週を始めるにあたり、福音は聖なる山に私たちを連れていきます。「先生、私たちがここにいるのは、素晴らしいことです！」これは霊的慰めの体験に対する私たちの自然な反応です。私たちは栄光のうちにイエス様といっしょにいたいと思います。私たちはここに仮小屋を建て、永久にこのまま留まりたいと思います。しかし、慰めに結びつき過ぎると、私たちがイエスに従うのを力づけることになる変容の真の実りを見過ごします。三つの仮小屋を建てることに熱心なペトロは、モーセとエリヤとのイエスの会話を遮ります。彼は聞いていません。御父が話すと、ペトロの反応は変わります。ペトロと他の二人の弟子たちは地面に倒れ、恐れに打ち勝ちます。イエスのメッセージが美しく慰めに満ちているとき、あるいは誰かほかの人に話しているかのようなとき、イエスの言葉は聞きやすくなります。主が直接私たちに話していると気づいたとき恐れて、たちの限界を超えてしまいます。

このような恐れや弱気の瞬間、「彼の声を聞き」続けることは一層重要です。イエスは私たちに何をおっしゃっているのでしょうか？第一に、「立ちなさい。恐れるな」です。主はどれほど度々このことを私たちに言っているのでしょうか、そしてどれほど度々イエスの言葉を聞く必要があるのでしょうか！主は私たちの聖性への妨げとなる「福音が意味している困難への恐れ」を望みません。前進するために、私たちは信頼し、恐れてはなりません。山上でのイエスの第二のメッセージは、「誰にも話すな」です。これは永続的な命令ではなく、必要な中間の段階です。現存のうちに私たちは沈黙の方法を学ばなければなりません。私たちは走り出していきなり話し始めるべきではありません。私たちは神の言葉を聞いて、深く考え、それを吸収する必要があります。主は私たちを内面的に、信仰、謙虚さ、知恵で形づくりす。主が私たちを送り出す時は確かに来ます。

信仰の旅は異質のものです。私たちの精神は、科学技術の驚くほどの進歩によって絶え間なく形成されています。今や普通の電話でさえ追跡能力を備えていて、私たちがどこにいるかを何時でも正確に知ることができ、目的地からどのくらい離れているかを知ることができ、一番よいルートを知ることができます。信仰の道は全く違います。私たちはどこに行くかは分からずに進みます。これは未知で、怖いことです！進むにつれて、私たちは「彼の声を聞き」続けます、主は私たちの日々の道案内者であり、唯一の確かな支えです。

(Paulina)

四旬節 第3主日 (ルカ13:1-9)

私たちは今、主のご復活へと向かって、この四旬節の時をご一緒に歩んでいますが、今日のみことばの箇所では、イエスは「あなたがたも悔い改めなければ、皆同じように滅びる。」と、具体的な事例を挙げながら、一度ならず、二度も繰り返して言われます。悔い改める様に、滅びない様にと。それは全ての人の救いを願う神の人々への諭しです。

イエスは災難に遭ったり、塔が倒れて死んだ人の話をされますが、それらの人々は、他のどの人よりも罪深い者だったからではないと語られます。私たちは不幸な出来事を目の当りにしたり、そのことを聞いたりした時、自分でなくて良かった、自分は正しい人間だから、罪深くないから守られている…。その様に考えるならば、罪があるという自分自身の現実から目を背け、イエスの言われる様な滅びる危険があるでしょう。

神様は慈しみ深いお方です。私たちがご自分から離れて、永遠の滅びへ向かうことを望んでおられません。私たちは神様から自由意志をいただいています。善を選ぶこともできますし、そうでないものを選ぶこともできます。たとえ私たちが離れてしまったとしても、心から悔い改めて立ち返ることを、望んでおられます。待っておられます。

最後にイエスは、いちじくの木のとえ話をなさいました。植えた人は三年もの間、木に実を探しに来ているのに見つけたためしがない。そして園丁に切り倒せと命じます。これに対し園丁は、木が切られるに忍びなく、今年もこのままにしておいてください、肥やしをやってみます。来年は実がなるかもしれません。それでもだめなら切り倒して下さいと、大切な木が生きるため、木に実がなるために取りなしをして下さいます。

私たちが愛して下さるイエスはこの園丁の様に私たちが世話し、私たちの成長を願い、また豊かな実を結び、滅びない様に、父なる神に取りなしして下さいます。そして憐れみ深い父なる神は、イエスとともに私たちの様々な罪を耐え忍んでおられます。四旬節を私たちはともに歩んでいます。今、神のみ前で自分自身を見つめ、振り返りましょう。神に赦しを願うことがあったなら、謙虚に認め、神に赦しを願いましょう。そして神に赦していただいた喜びのうちに、ともに歩みを進めてゆくことができますように。

(Fr. 古川利雅)

四旬節 第4主日 C

(ルカ 15 : 1 - 3, 11 - 32)

今日の福音では、話を聞くためにイエスを訪れた罪人たちと、「罪人を迎えて食事までするのか」とイエスに抗議するファリサイ人や律法学者たちが登場します。ファリサイ人は「分離した者」とも言われ、罪人なんてそのまま見捨てておけば良く、自分とは一切無関係というスタンスを取っていました。しかしイエスにとっては、両者とも同じ御父の子どもであり兄弟同士です。そこでイエスは、二人の息子たちをなくしてしまった父親のたとえ話を話されました。

次男は異国の地で道に迷いましたが、長男は自宅にいながらも道に迷いました。次男は家を出た後、飢え、不名誉、そして死の危険に直面し、故郷から遠く離れて忘れ去られたままのたれ死ぬ寸前に、自分の居場所がこの豚小屋ではなく家であることにハッと気づきました。自分の居場所を求める飢え渴きはとても苦しいものです！まともな食事にありつけるという思いで、次男は正しい方向に進みます。そして空腹を抱えつつ、赦しを願う告白を準備して帰路につきました。

他方、牛たちを小屋に帰した後も畑に長時間居残るタイプの間人であった長男も家に帰ろうとしましたが、弟と違って家にたどり着けませんでした。出迎えてくれた父親は、長男にとってはつまらない言い分を述べるだけです！「何年もあなたに仕えています」という発言から分かります。長男にとって忠誠とは、あくせく仕えることであり、これに囚われてきました。つまり彼は、自分の正義感によって自分を縛りつけていたのです。長男は、弟への義務を負わずに財産を守りたいと思っています。長男は、手をさしのべる心の広さを持たず、弟を弟として認めず、「迷っている彼を放置してよし」と考える「分離した者」です。父親のように驚くほどあわれみ深い愛と思いやりを弟に示すことができません。

私たちは自分の中に、この三人の登場人物それぞれを垣間見ることができるでしょう。道に迷った人を探し出すために目を凝らし、人を温かく迎え入れてお祝いを主催する善意のこころを持つ父親。自分の利益のためにありったけのものを抱え込み、やってはいけないことをとことん実行してしまう次男。また、愛のない忠誠心の代価を他者に支払わせる長男。これら三人は、人生の主導権を握ろうと私たちの中で日々しのぎを削っています。この四旬節では、私たちの中に住まう父親が生き生きと動き、あわれみ深い愛と思いやりをもって他者に駆け寄っていけるように祈りましょう。あたりを見回せば、道に迷ってさまよう人たちがまだまだ大勢いるはずです。

(Sr. Paulina)

糸巻き棒からペンへ(40)

現代人のためのイエスの聖テレジアの教え

エドゥアルド・サンス OCD

テレジアが入会した時、このような状況の中で約 50 人の修道女たちがいました。もっと後で、彼女も長い期間、修道院の外に住むことになります。

これらの三種類の修道女（“歌隊所”、“助修女”、“ドニャ”）と寄宿の少女たちや娘たちの他に、修道院の所有地には、農園で働く人たちや年金の管理人やその他の使用人たちの家がありました。これらの最後の人々が、馬小屋、鶏小屋、鳥小屋などの世話をし、羊の群れを牧し、修道院があちこちの村に持っていた土地（何人かの修道女の持参金、あるいは教会に埋葬されることの引き換えに入る世俗の人々の遺産や霊魂のために定められた祈りなどの実り）の賃貸料を集め、穀物を粉ひき場へ、小麦粉を製パン屋へ運んでいました。共同体も、付司祭や聴罪司祭、医者や外科医、公証人や管財人や弁護士と契約を結んでいました。したがって、ご託身修道院は、今日私たちが修道院と考えるような所というよりは、小さな町に似ていたのです。そこには世俗の人々の間と同じように修道女たちの間に、あらゆる社会的な身分の女性たちが存在していたのです。

家族によって修道院にとどまるよう強いられた修道女の中には、当然のことながら、修道召命を感じない無気力な者が大勢いたのです。彼女たちについて、聖テレジアは、「彼女たちはこの世にいる以上に危険な状態にある」とか、「彼女たちを修道院に入れるより、ずっと低い身分の人と結婚させた方が望ましい」と書いています。また彼女は決して参加しませんでした。召命のないこれらの女性たちの間では非常に普通であったいくつかの習慣についても叙述しています。「許可なしに何もしない自由を持つこと、つまり裂け目や壁越しに、あるいは夜中に決して何もしなかったということです」。

すでに触れましたが、テレジアは明確な修道召命の意識を持たずに修道女となったのです。「私の意志は修道女となることになかなか傾かなかったのですが、この身分がより良く、より安全だと分かりました。こうして次第に、私はこの生活に入るため自分を強制しようと決心するようになりました」（『自叙伝』3・5）。しかしながら、信心深い本を読むことや、何人かの修道女の良い模範や寛大な性格は、彼女に人生を真剣に受け取るよう導きました。修道院の中で、彼女は自分の心を奪う平和や喜びに出会ったのです。（続く）

いのちの言葉 3月

あなたがたの父が憐れみ深いように、
あなたがたも憐れみ深い者となりなさい。

(ルカによる福音書 6・36)

ルカによる福音書は、イエスが、「山上の垂訓」を説いたのち、すべての人を自分の兄弟として愛し、敵でさえもそのように愛しなさいと語り、弟子たちを全く新しい生き方に招いたと、伝えていきます。なぜならイエスは、すべての人が皆、唯一の父をもつ兄弟であり、御父が常にご自分の子供たちを探し求めておられるのを、よくご存知だったからです。

実際、御父は私たちとの親しい交わりを望まれ、私たちの間にもそれを求めておられます。更に、御父は子供である私たちを手塩にかけ、癒し、養ってくださる方で、その愛は、優しく見守る母の愛のようです。このように、神の憐れみは弱さを持った私たちすべての人間に注がれていますが、とりわけ、虐げられている人々を神は心に留められます。

こうして、神の憐れみによって人々の心は愛で満たされ、やがてこの愛は、私たちを取り巻くすべての人、周りの社会にまで注がれ行き渡るでしょう。そして、私たちは神に愛される子供として、御父の特徴を持つ者、その姿に倣う者となれるでしょう。

あなたがたの父が憐れみ深いように、
あなたがたも憐れみ深い者となりなさい。

しかしながら、私たちの日常や社会生活を見渡すと、残念なことに、行き過ぎた競争意識、相互不信、あるいは、理由もなく人を裁いたり、怖れたりする風潮が高まっているように思えます。このような恨みや憎しみがつのると紛争や戦争にもなりかねません。

私たちキリスト者も、まず自分自身を見つめ、家庭や職場、教会共同体や政治政党の間にある壊れてしまった関係を、築きなおすように努めてみようではありませんか。そうすることで、私たちもイエスのように世の流れに逆らう生き方を示すことができるでしょう。

そして、もし私たちが誰かを傷つけてしまったなら、勇気を出してその人に赦しを願いましょう。それから再び、前進しましょう。

それとは逆に、誰かに傷つけられたならば、傷つけた相手に対して心を閉ざすことなく、かえって心を大きく広げ、その人を赦すよう努めましょう。もしかすると、そうすることによって相手にも、お互いの関係を修復する機会が与えられるかもしれません。

では、「赦し」とは何でしょう。キアラ・ルービックは語っています。

「赦しは、忘れ去ることで、(中略)弱さでもありません。(中略)重大な過失を軽く扱うことで、悪を良しとすることで、(中略)無関心でもありません。赦しは、たとえ私に悪いことをしたとしても、その人を兄弟として迎える、

という意志と理性の行為、自由に基づいた行為です。欠点だらけの罪びとである私たちであっても、神はありのままに迎えて下さると同じように。

赦しとは、受けた侮辱に対して侮辱で答えないことです。聖パウロが言うように『悪に負けることなく、善をもって悪に勝ちなさい』¹を生きることを意味します。』²と。

もちろん、このような生き方は簡単ではありません。私たちが神の子供として日々努力し、成長することで、少しずつ身についていくことでしょう。

そして赦しは何よりもまず、御父からの賜物であることを思い出しましょう。私たちは御父ご自身に、この賜物を与えて下さるようお願いできますし、そうしなければならぬのです。

あなたがたの父が憐れみ深いように、
あなたがたも憐れみ深い者となりなさい。

フィリピンの若い女性 M さんの体験です。

「父が殺された時、私はたった 11 才でした。当時、家は貧しく正当な裁判も受けられなかったので、私は成長してから父の死を解明したいと思い法律を学びました。でも神様は私の上に別のご計画をお持ちでした。同僚の一人が、福音を真剣に生きる人々の集まりに誘ってくれたのがきっかけで、私も福音を生き始めるようになったのです。

あるとき、『敵を愛しない』³というみ言葉を生きる術を教えてください、とイエスに祈りました。父を殺害した人たちへの憎しみが、常に私の心にあったからです。するとその翌日に、全く思いもよらぬことが起こりました。職場で、父を殺害したグループのボスと出会ったのです。彼に笑顔で会釈し、家族の安否を尋ねる私に彼は非常に驚き、狼狽していました。でも、それ以上に驚いたのは私自身でした。自分でも、なぜあのように振舞えたのか分かりませんでした。

私の中にあった憎しみが消え、愛に変えられていくのを感じました。これが最初の一歩でした。でも、愛はもっと新しいものを作り出す力に富んでいます！私はこのグループの一人ひとりに、私からの赦しを受けとってもらい、神様が彼らを愛しておられることを証ししたいと思いました。弟と一緒に、彼らを訪ねました。その中の一人は、私と弟に自分の犯した罪の赦しを乞い、さらに自分と家族のためにも祈ってほしいと願いました。」

レティツィア・マグリ

連絡先：フォコラーレ東京 03-3330-5619/03-5370-6424 長崎 095-849-3812

E-mail:tokyofocfem@gmail.com

ホームページ: <https://www.focolare.org/japan/>

¹ ローマ 12・21 参照

² キアラ・ルービック「岩の上に築く」チッタ・ノーバ社 1993 年（ローマ）P56 参照

³ マタイ 5・44、ルカ 6・27 参照

木を見ると木よりも高い空が見える——— 谷川俊太郎の「き」という詩の一節ですが、私は週に三回、きまった時刻にきまった場所で木を見上げ、木よりも高い空を見えています。

週に三回夫がデイサービスに通っていて、送迎車の時刻が朝のお迎えのときはほぼ正確なのですが、夕方の帰宅の時刻ははっきりとはわからないのです。

車が自宅の方へと入ってくる路地を、家の窓からちょうど良く見渡せるので、いつも30分以上はソファに寄りかかり、窓外に目を向けているということになるのです。

目の前には数本の高い樹木が立ち並び、そのてっぺんは向こうに見える五階建ての棟のさらに二階分ほどはゆうに高くあり、今の季節は裸木となって繊細なレースの編み目のように茂りあった梢が、我が身よりもっと高い空の内へと向かっています。私はただひたすらに木を、空を眺め入ります。

要は大変に実務的な事柄であるのですが、しかしまた、さまざまに雑雑と込み入るこの日常にあって、それはひっそりと息をととのえる貴重なひとときとなっているようです。

静まった私の内に何か意味深いものがしっとりと入り込み備わって、切切と心を動かすこととなるのでしょうか、そこにあるかそけき声に注意深く心を澄ませ耳を傾けると、時間は忙しい流れを止めて、私が今ここにあるという静謐な感覚をもたらします。

意識の奥の奥のほうから、ぼんやりとしかし確実に浮かび上がってくるものを捉える瞬間もあります。今この時しか思えないというものを思うこともあります。

ずっとずっと昔に、念禱を形あるものとして毎日の日課にしていました。

時刻と場所をきちんと定めて必ず正座の姿勢でその時を過ごしました。

長い長い年月を重ねました。いつからだったのでしょうか、そのきまった形が日々の生活の中からなくなっていったのは・・・なくなった時もまたなくなった理由も覚えがないのですが・・・。

夫の帰りを待ちながらの木を空を見上げる静かな時間は、かつての念禱の時間をよみがえらせてもいるのでしょうか、そういえばこの時間、私は主イエズスと一緒にいることが多いのです。

主イエズスの傍らに座り、み顔を仰ぎ瞳を見つめひたすらに耳を傾けお声を聴いたことを思います。

深い悲しみが身を覆い息ができないほどに出口をなくして、必死の思いでみ衣の房に触った時の、指に走った言いようのない感触をありありと思います。井戸端でお話したことを思います。イエズスをなくしマリアさまの胸にすがって泣きました。マリアさまは静かで美しかったことを思います。誰かが主を取り去って泣いていたとき、なぜ泣いているのか、だれを捜しているのかと私の名を呼んでくださったことを思います。

主イエズスがおられることが私の全てでした。

とめどない長い深い時間でした。あの時間は今どこに思うのですが、不思議なことに何もかもよくわかりません。あの頃よりも今の方がイエズスのお姿ははっきりしないのです。近いのか遠いのかそれもよくわかりません。

でも、いいのです。よくよく思ってみれば長年連れ添った夫婦のような感じなのかもしれません。相手の存在をわが存在に受け入れて、境をなくすというような・・・恋しく狂おしく探し求める時代もあり、蜜月の甘やかな微睡むときもあり、試練もありましたが・・・

路地を入ってくる送迎車を見とめ、窓辺を立ち上がり出迎えに行きます。職員さん、同乗のお仲間に挨拶して、おぼつかない足取りの夫を支えて帰宅です。今日の出来事を聞き、持ち帰った着替えの類を洗濯物入れにいれて、連絡帳の伝言板に目を通します。夕食の準備をします。

何もかもがひとつの同一の世界なのです。

窓辺で木をそして木よりも高い空を眺め入る無言の時も、こうしてどこか忙しなく時にはいらいらしながら立ち働く時も、ここが私がいるところであり差異はないのです。

窓辺から仰ぐ高い樹木は、春夏秋冬それぞれの趣をこれ以上には望めないというほど美しさを呈します。

疲れたら季節の中に居ればそれでいい ふと目にした映画か小説の惹句の一文ですが、ほんとうにその通りです。私はその中にただ居るのです。

(上野毛教会信徒)

跣足カルメル修道会HP (International)

跣足カルメル修道会ローマ本部のホームページ <http://www.carmelitaniscalzi.com>
の記事を紹介します。

<< Communications (時事通信) >>

2019年2月9日

カルメル会 拡大総長顧問会 2月6日水曜日



拡大総長顧問会2月6日の朝ミサは、日本26聖人殉教者（聖パウロ三木と同志殉教者）の記念日にあたり、フランス語で捧げられました。コンゴの総長代理、ロジャー・チマンガ神父がミサを司式し、典礼はフランス語グループが準備しました。

その日の作業セッションでは、拡大総長顧問会の参加者は、2015年の総会文書（『歩きだす時です』N. 32参照）の指示に従い、会憲の全面改訂、会憲の部分改定、または跣足カルメル修道会のカリスマについての宣言文作成というさまざまな可能な選択肢について意見を出し合いました。総会後の3年間、跣足カルメル修道会の全管区と共同体を巻き込んだ「会憲の再読」の第一段階の結果を広範囲に検討し、また提案の各選択肢の意味と影響を考察した後、拡大総長顧問会は大多数の投票により少なくとも当分は会憲の現行テキストの修正を進めないことに決め、テレジア的カルメルの修道生活のカリスマについての宣言文草案に取りかかることで合意しました。ここでの作業では、全教会において価値あるものとして与えられた譲ることのできないカリスマの本質を再自覚し、その本質を現代において適切に表現することが、きわめて重要であることが明らかになりました。

続いて総長顧問のルーカス・カンシィ神父は、規範（第一部に関する：N. 1-134）の改定のために幾つかの提案を出しました。私たちは、この種の更新は、総会の通常の活動としてとらえており（『会憲』153）、聖座の承認を得る必要のないことを再認しました。

午後には、地理的言語グループで午前中に出された諸提案について議論しました。最後に、総会計のパオロ・デカーリ神父がスライドを使って、さまざまな地域に関する一般的な会計管理を説明しながら会計報告をし、（本部、各管区、各修道院の）良い管理状況を特徴づける基本的な内容と、健全な管理に付随する責任と透明性と信頼性を強調しました。

カルメル誌 新刊案内



2018年 冬号 No.371

《霊的生活への招き》

秘跡に養われるキリスト教生活(2)―洗礼の秘跡

今泉 健

信仰生活(再)入門 テレーズと共に歩む 幼子の道(4)

―小鳥の祈り(2)信仰のまなざし 片山はるひ

カルメル会の会則に見る

アシェンシスと修道生活(4) 九里 彰

現代に響くルルドの霊性(Ⅲ)

―マッサビエルの洞窟での観想と聖母出現

須沢かおり

祈りを育てるために

森 一弘

風に吹かれて(18) カラスの贈り物―与え与えられる

原 造

キリストに伴われて季節を巡る(4) 伊従信子

祈りを教えてください(4) ヨハネ福音書

―栄光と愛に包まれた祈り 田畑邦治

ともに暮らす家への気配り ポーリン・フェルナンデス

霊性研究会議義録(3)―クリスマスに際して

奥村一朗



2018年 特集号

「ともに暮らす家を大切に」

―『ラウダート・シ』を生きる―

「エコロジカルな回心」と「総合的なエコロジー」

吉川まみ

長く見落とされてきた

「身近で些細な存在をいとおしむ」スポット・ライト

大瀬高司

人知れず紡がれていく世界の中で

―『ラウダート・シ』の霊性

中川博道

諸宗教対話の立場からひと言

フランコ・ソットコロノラ

自然とカルメルの霊性

―十字架の聖ヨハネを中心にして

九里 彰

ご案内

1冊 520円 A5サイズ 50～70ページ

サンパウロ・ドンボスコ書店・イグナチオ教会案内所・上野毛教会

信徒ホール本コーナー・各カルメル会黙想の家 他にてお求め下さい

●送付ご希望の方は、700円【520円 (+送料 180円)】程度の献金を下記

へお振込み下さい

●年間での継続送付ご希望の方は、年会費(年5冊:春夏秋冬

+特集号 計 3,500円)を下記へお振込み下さい

郵便振替:00190-4-195457 跣足カルメル修道会

お問い合わせは事務担当 竹田まで TEL(03)5706-8356

ドキュメンタリー映画を作りました！

筋痛性脳脊髄炎（ME）という病気をご存知でしょうか。日本では長年、慢性疲労症候群（CFS）という病名で知られ、慢性疲労が悪化しただけであるかのように未だに医療関係者からも思われていますが、実は世界保健機関において神経系疾患と分類されている神経難病です。2014年度の厚生労働省の実態調査において、患者の約3割が寝たきりに近い重症患者であり、ほとんどの方が職を失うという深刻な実態が明らかになっています。

私は1990年に米国留学中に筋痛性脳脊髄炎を発症し、車いすでなければ外出できなくなり、1996年に帰国しましたが、日本ではME/CFSの診断さえ否定され、医療機関や行政からも「詐病」の扱いを受けました。そして、2005年に座位を保てなくなり寝たきりに近くなっても、「精神的な問題」と捉えられました。

2008年に初めて日本で4名の患者さんに会う機会があり、皆が同じように周囲の無理解と偏見に苦み、診て頂ける医師もいないことを知り、何とかしなければいけないと思いました。そこで、この病気の深刻さを理解して頂くために、患者の実態を描く米国のドキュメンタリー映画を翻訳し、試写会を開いたのがきっかけとなり、数名の支援者と共に2010年に「慢性疲労症候群をともに考える会」を発足させました。2012年には「NPO法人筋痛性脳脊髄炎の会」となりました。

患者会発足当時、この病気を神経難病と理解している医師は日本には一人もおらず、インターネット等には間違った情報があふれていました。ですから、一人の医師の理解者もいない中で患者会を立ち上げ、海外の最新情報を翻訳して病気の正しい認知を求め、神経内科医による研究を訴え始めました。

そしてこの度、患者会で日本の重症患者の実態を描くドキュメンタリー映画「この手に希望を～ME/CFSの真実～」を製作しました。映画の中では、ほとんど外出することもできないような重症患者の実態、疲労の病気ではなく神経難病であること、この病気の研究をして下さる研究者が必要でること、患者たちは根治薬の開発を願っていることなどを、海外の進んだ研究の状況と、私たちの働きかけによって日本で開始された研究の内容などを交えて訴えています。

試写会に来て下さった方のアンケートに、「患者様に寄り添い、一番伝えてほしい」と思っていることを、どう伝えてゆくかを深くしっかりと考えて作られた映画だと感じました。わかってもらえず、共感してもらえないことがいかに患者様にとってつらいか、いかに傷つくか、そのつらさと大変さに心がえぐられる感じがしました。患者様の切実な願いに真剣に真正面から真心で取り組まれたドキュメンタリー映画

だと思ひます」と書いて下さった方がいます。映画は、日本神経学会代表理事、日本医師会会長、女優の竹下景子さん、作家の落合恵子さん、精神科医の香山リカさんなどから推薦を頂きました。

映画の取材で監督から、「もし病気が良くなったら何をしたいですか」と聞かれました。病気が良くなるということは、治療薬ができるということです。とっさに「そうならば、患者会は後進に道を譲って、大好きなお祈りをしたいです」と答えました。その後、お祈りのシーンの撮影も行われました。患者会を始めて、いかに国を動かすことが困難であるかを、いやというほど思い知らされました。光のない長い長いトンネルの中を何も持たずに歩いているように感じ、何も変わらない現状に失望しかけたこともあります。そういう時には、あの長い道のりを重い十字架を背負って歩かれたイエス様の姿を思っで祈ります。患者会発足直前に聖地巡礼に行くことができたのは、これを準備するためだったのだろうかと感じます。

神の御許に召された時には、神様を賛美することだけが自分の務めとなるのだと想像し祈ることが、私の喜びの源です。祈りと奉仕によって信仰の光を輝かせ、神様は全ての人を愛して下さっていることを、身をもって伝えたいと思っています。

ドキュメンタリー映画の詳細は、当会の HP (<http://mecfsj.wordpress.com/>) をご覧ください。予告編もご覧頂けます。DVD は、1000 円以上のご寄付（送料込みで 1200 円）で、郵送させて頂きます。お振込み頂く際には、①お名前、②DVD 送付先の郵便番号と住所、③電話番号又はメールアドレスを、メール (answertomecfs@gmail.com) かファックス (03-6685-6233) で必ずお知らせ下さい。ご寄付が確認できましたら、発送させて頂きます。患者会の活動費とさせて頂きますので、多くの方のご協力をお願い致します。

【お振込み先】

◎ ゆうちょ銀行から振込む場合

ゆうちょ銀行

記号 10040 番号 92225421

特定非営利活動法人筋痛性脳脊髄炎の会

◎ 他の金融機関から振込む場合

ゆうちょ銀行

店名 ○○八 (ゼロゼロハチ)

店番号 008 普通預金 9222542

特定非営利活動法人筋痛性脳脊髄炎の会



書籍案内

生きる意味

●キリスト教への問いかけ

清水正之・鶴岡賀雄・桑原直己・釘宮明美 編

A5判・312頁・2500円+税

ISBN978-4-87232-100-5

東日本大震災と原発事故によって喚起された「生きる意味」という愚直な問い。その答えを示すことこそが、「宗教」である。グローバル化に伴う経済格差、労働のあり方、宗教の役割など——危機にさらされている人間の救済の道を探る。

——— 目次 ———

- 序 「生きる意味への問いかけ」がなされる場をめぐって／鶴岡賀雄
- 1 東日本大震災と宗教／中下大樹
 - 2 宗教と社会と自治体の災害時協力／稲場圭信
 - 3 東日本大震災に思うこと／佐藤純一
 - 4 脱原発の倫理／久保文彦
 - 5 何のために働くのか／神谷秀樹
 - 6 グローバル化する経済の中の人間／勝俣 誠
 - 7 私たちの社会に希望はあるか？／宮台真司
 - 8 関係の倫理学／清水正之
 - 9 宗教が医療・医学に果たした役割、果たすことが期待されている役割／加藤 敏
 - 10 V・フランクルのロゴセラピー／桑原直己
 - 11 「神の子となる」——カルメルの霊性と共に／★九里 彰★
 - 12 「おかげさま」の言語化と生き方による霊性化／中野東禪
 - 13 エディット・シュタイン『十字架の学問』への道とその霊性／釘宮明美

オリエンス宗教研究所 TEL:03-3322-7601 FAX:03-3325-5322

ご注文は全国のキリスト教書店、オリエンスHP、FAX、ネット書店などへ



福者マリー=ユジェーヌ神父に導かれて
十字架の聖ヨハネの
ひかりの道をゆく

伊従 信子 編・訳

ISBN978-4-88216-372-5 C0195

定価**540**円(税込)

【聖母文庫】**287**

**第2版
好評発売中!**



マリー = ユジェーヌ神父が十字架の聖ヨハネ
を生き、体験し、確認した教えなのです。
ですから、十六世紀の十字架の聖ヨハネの
教えは現代の人々にも十分適応されます。
また、神の命を伝え、実践的手段を示して
聖性の最も高い段階へと導こうとする彼の
配慮が伝わってきます。(「はじめに」より)

神と親しく生きる
いのりの道

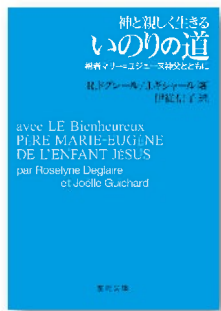
福者マリー=ユジェーヌ神父とともに

R. ドブレール / J. ギシャル 著

伊従 信子 訳

ISBN978-4-88216-307-7 C0195 【聖母文庫】**246**

定価**540**円(税込) 209頁



わたしは神をみたい
いのりの道をゆく

マリー=ユジェーヌ神父とともに

伊従 信子 編・著

ISBN978-4-88216-339-8 C0195 【聖母文庫】**268**

定価**648**円(税込) 281頁



ご注文・お問い合わせ先

聖母の騎士社 ☎850-0012 長崎市本河内2-2-1
TEL.095-824-2080 FAX.095-823-5340

修道院の風

宇治カルメル会 修士 原 造・著

競争社会の真ただ中、ある夜、闇の中に流れ来るふしぎな調べに足を止めた。それは、初めて耳にした、心に沁みる祈りの声――。

この世に、しかも身近に、自分のためではなく、神と人びとのために隠れて生きる人びとがいることも知った。そしてそこから、自分の人生設計にはななかった、洗礼、修道生活という新たな世界へと導かれてきた。

これは、修道士となり、人生も黄昏のときを迎えた祈りの日々、折りにふれて綴った随想の風。

著者★原 造（はら つくる）

1946年 群馬県桐生市生まれ。

1991年 男子靴足カルメル修道会入会。

1997年 荘厳誓願宣立。

現在に至る。

女子パウロ会
新刊案内

5月10日発行



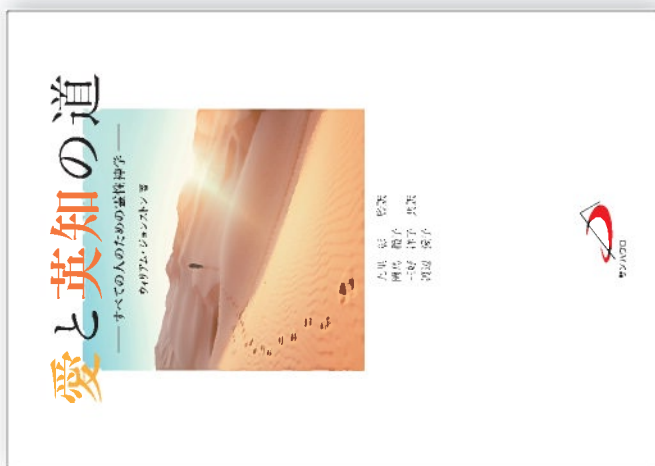
B6判・128頁・定価 本体 1,100円＋税
ISBN978-4-7896-0794-0 C0016 NDC194

愛と英知の道

—すべての人のための霊性神学—

ウィリアム・ジョンストン 著

九里 彰 監訳
岡島 禮子 三好 洋子 渡辺 愛子 共訳



西洋と東洋の神秘主義の伝統に通暁した著者が、21世紀というグローバル化し、「地球家族」となった現代世界のすべてのキリスト者に遺した霊的生涯の道しるべ。「すべての人は、聖職位階に属している人も、あるいはそれによって牧されている人も、皆聖性へと召されている。『あなたが聖なる者となること、これが神の望みである』と使徒が言っているとおりである」（『教会憲章』39）。

本書は、十字架の聖ヨハネが16世紀に向けてなしたことを、21世紀に向けて行なおうとする、ささやかな試みです。言いかえると、その目的は、命の水を渴望する人たちへ、観想的な祈りを教えることです。筆者は、主にキリスト信者を念頭に置いて筆を進めますが、真理の探究において私と心をもと心一つにし

- 第一部 キリスト教の伝統
 - 第1章 福音書(1)
 - 第2章 福音書(2)
 - 第3章 理性対神秘主義
 - 第4章 神秘主義と愛
 - 第5章 東方のキリスト教
 - 第6章 愛を通して生まれる英知
- 第二部 対話
 - 第7章 科学と神秘神学
 - 第8章 修徳主義とアジア
 - 第9章 神秘主義と根源的なエネルギヤ
 - 第10章 英知と(空)
- 第三部 現代の神秘的な旅
 - 第11章 信仰の旅
 - 第12章 浄化の道
 - 第13章 暗夜
 - 第14章 (愛のうちにある)
 - 第15章 花嫁と花知
 - 第16章 一 致
 - 第17章 英知
 - 第18章 活動
 - 第19章 社会活動の神秘主義



ウィリアム・ジョンストン William Johnston S.J. (1925-2010)
北アイルランドのベルファストに生まれる。
イエズス会に入会し、26歳で来日。
32歳で司祭に叙階され、以後、英語、英文学、宗教学を上智大学などで講じる。また、東西の宗教思想、特に神秘主義の研究と普及に尽力。パドロー・アルベ、トマス・マートン、ダライ・ラマ、永井隆、遠藤周作との出会いを通して、次々と著作を発表。現代に則した霊性探求の先駆者として、世界に広く知られている。85歳で帰天。

使徒言行録を読む

聖霊に導かれて



14

企画・編集 京都司教区聖書委員会

使徒言行録はルカ福音書の後編として書かれ、初代教会においてどのように福音が宣教されていったかをわたしたちに伝えています。エルサレムでの初代教会、ペトロの宣教、そしてパウロの宣教と受難について述べていくことを通して、使徒言行録の本当の主人公が聖霊であることが明らかにされていきます。カトリック教会で使徒言行録についての解説がほとんどない中、使徒言行録を読んでいくための必修の講話集。



村上 透磨	はじめに
中川 博道	ペトロの宣教
一場 修	聖霊の働き
西 経一	パウロと律法
北村 善朗	パウロの宣教
鈴木 信一	パウロの受難
澤田 豊成	パウロからわたしたちへ

定価 本体 **1,400** 円 + 税
B6 判並製・232 頁・ISBN978-4-8056-3909-2
お求めは聖書委員会またはキリスト教書店で

京都司教区聖書委員会
〒604-8006 京都市中京区河原町通三条上ル カトリック会館7階
TEL: 075-211-3484 FAX: 075-211-3910
E-mail: seisho@kyoto.catholic.jp

カルメル会の企画案内



カルメル会の標語

Zelo zelatus sum pro Domino Deo exercituum

私は万軍の神、主に情熱を傾けて仕えてきました（列王記上 19 : 10）



上野毛 霊性センター(東京) (2019年～2020年3月)

黙想企画 **上野毛 聖テレジア修道院(黙想)**

祭日のミサに参加するために

チェックイン午後3時以降可、チェックアウト午前10時

【聖週間】 4月18日(木)夕食～21日(日)朝食《講話なし、各食事つき》

【クリスマス】 12月24日(火)～25日(水)朝食《講話なし、夕食なし》

聖書深読黙想会 (土曜日18時～日曜日16時) 大瀬高司 神父

5月11日(土)～12日(日)

7月20日(土)～21日(日)

11月30日(土)～12月1日(日)

一泊黙想会 (土曜日16時～日曜日16時) 志村武神父

5月25日～26日 2020年

7月6日～7日 1月18日～19日

11月9日～10日 3月14日～15日

日帰り黙想会 (13時30分～16時) 福田正範 神父

私たちの毎日の生活が神のみことばの光によって照らされますように・・・。

3月 7日(木) 3月22日(金) 4月11日(木) 4月26日(金) 5月 9日(木)

5月31日(金) 6月13日(木) 6月28日(金) 7月11日(木) 7月26日(金)

9月12日(金)

10月31日(木) 11月14日(木) 11月29日(金) 12月13日(金)

2020年

1月 9日(木) 1月31日(金) 2月27日(木) 3月12日(木) 3月27日(金)

*各日、午前から個人静修も可能です。(昼食付)

*申し込みは、3か月前より受付致します。

奉献生活者のための黙想会 (初日17時～最終日朝食) 福田正範 神父

8月1日(木)～10日(土)

10月10日(木)～19日(土)

8月16日(金)～25日(日)

12月27日(金)～1月5日(日)

青年黙想会(男女) 35歳位まで(初日16時～翌日16時) カルメル会士
4月27日(土)～29日(月)

2020年

2月15日(土)～16日(日)

召命黙想会(男女) 40歳まで(初日16時～最終日16時) カルメル会士
11月22日(金)～11月24日(日)

特別黙想会(初日20時～翌日16時) Sr. 伊従信子(ノートルダム・ド・ヴィ)
11月15日(金)～11月17日(日)



- * 日程、指導司祭は変更される可能性もあります。お申込みの際には、ホームページ (<http://www.carmel-monastery.jp>) なども合わせてご覧下さい。
- * こちらに掲載されている以外の日時にもご利用可能です(グループ、個人いずれも)。お気軽にお問い合わせください。
- * 間違いを避けるため、お問い合わせはFAX・はがき・Eメール等、文書でお送り頂きますと幸いです。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

Tel:03-5706-7355 Fax:03-3704-1789

Eメール: mokusou@carmel-monastery.jp

ホームページ: <http://www.carmel-monastery.jp>

《カルメル会》

四旬節講話シリーズ

家庭の危機 教会の危機

～『愛のよろこび』に光を求めて～



日 時：下記各日曜日、午後二時半開始、入場無料（講話後、主日ミサ）

3月10日（日）： 九里 彰神父（カルメル修道会）

「神の愛の共同体 ——家庭の霊性とカルメル」

3月17日（日）： 小林 由加氏（カトリック学校教員）

「いっしょにいのちを育みたいなあ ——家庭と教育の現場から」

3月24日（日）： 田畑 邦治氏（白百合女子大学学長）

「創り創られるもの ——結婚・家庭の自然と恩寵」

3月31日（日）： 松田 浩一神父（カルメル修道会）

「キリスト信者の結婚と家庭 ——霊的・司牧的同伴からの一考察」

4月7日（日）： 大瀬 高司神父（カルメル修道会）

「聖家族を要として家庭と教会を見つめ直す ——危機を好機に」

場 所：カトリック上野毛教会聖堂

（東急大井町線上野毛駅下車 徒歩7分）

世田谷区上野毛 2-14-25 カルメル修道会

（TEL:03-3704-2171）

一泊黙想会

4月より新しく一泊黙想会を開始致します。皆様の参加をお待ちしています。

場所: カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

指導: 志村 武神父

会費: ¥6500

日時: 2019年 4月25日(土)~26日(日) 16時開始、翌日16時まで

7月 6日(土)~7日(日) //

11月 6日(土)~7日(日) //

2020年 1月 16日(土)~18日(日) //

3月14日(土)~15日(日) //

*お問合せ・お申込み

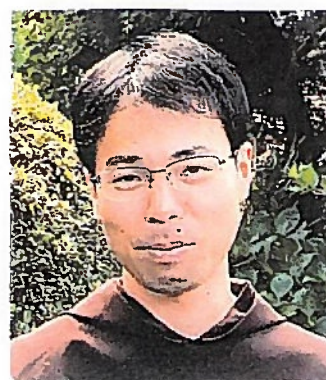
カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

TEL.03-5706-7355

FAX.03-3704-1789

Eメール:mokusou@carmel-monastery.jp



***** 日帰り黙想会 *****

☆☆☆聖人たちをささえた神のことば☆☆☆

“聖書を知らないことは、キリストを知らないことだ” とヒエロニモは言いました。
第二ヴァチカン公会議においても次のように語られています。

「すべてのキリスト者は、しばしば聖書を読んでキリストを知るすばらしさを学ぶように強く特別に奨励する」(啓示憲章6章25) 信じる人々を支えた神のみことばの光に照らされますように……。

場所：カルメル会聖テレジア修道院(黙想の家)

指導：福田正範神父



*午前中を個人黙想として静修をご希望の方は午前10時～ご利用が可能です。

昼食の準備のためあらかじめご連絡をお願い致します。

費用：午後からのご参加……¥2000、午前からのご参加……¥3500

日時：2018年	11月 8日 (木)	午後1時30分～4時
	11月30日 (金)	〃
	12月13日 (木)	〃
2019年	1月11日 (金)	〃
	1月25日 (金)	〃 *変更
	2月22日 (金)	〃
	3月 7日 (木)	〃
	3月22日 (金)	〃

*お問合せ・お申込み：

カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

TEL. 03-5706-7355

FAX. 03-3704-1789

Eメール：mokusou@carmel-monastery.jp

カルメル修道会 土曜静修 in 名古屋

—カルメル会士とともに過ごす聖母の土曜日—

日 時 : 2019年 3月2日 (土) 13時から 17時

場 所 : カルメル修道会 日比野 (本部) 修道院 (カトリック日比野教会)

プログラム : 13時 ~ 講話・黙想など
16時 ~ ミサ (ミサ中に教会の祈り)、サルヴェ・レジナ (ミサ後)
17時 解散

- ・受付開始は12時半の予定です。(聖堂には12時からお入りいただけます。)
- ・途中、ゆるしの秘跡の時間を設ける予定です。
- ・プログラムに必要な「祈りのリーフレット類」は、こちらで準備いたします。

その他 : 参加のための事前連絡は不要です。当日、直接会場にお越し下さい。
(尚、当日は、1,000円程度のご寄付を宜しくお願いいたします。)

問い合わせ : 郵便、FAX、E-mail の何れかで「カルメル修道会 一日静修係」まで。

郵便 456-0062 名古屋市 熱田区 大宝 4-5-17
FAX 052-681-6445
E-mail hibino@carmel.or.jp

今後のスケジュール

4月6日(土)、5月4日(土)、6月1日(土)、7月6日(土)、<8月はお休み>、
9月7日(土)、10月5日(土)、11月2日(土)、12月7日(土)。

何れも原則13時から17時まで。ホームページでもご案内しています。

<http://www.carmel-monastery.jp>

< 主催 > 男子跣足カルメル修道会 日比野 (本部) 修道院 (大瀬神父・ウイリー神父・古川神父)



宇治カルメル会 黙想会案内

【一般のための黙想】・1泊2日（午後5時～午後4時）

- 6月1日(土)～2日(日) イエスと出会い直す 中川博道神父
7月13日(土)～14日(日) 「私の隣人とはだれですか？」 九里彰神父
11月23日(土)～24日(日) 現代を生きるイエスのしるし 中川博道神父

【聖書深読黙想会】（午前10時～午後4時）

- 3月9日(土) 九里彰神父
4月20日(土) 中川博道神父
6月8日(土) 中川博道神父
9月7日(土) 九里彰神父
11月16日(土) 九里彰神父

【水曜の黙想】（午前10時～午後4時）

- 3月20日(水) イエスとともに過越しを祝う Sr.ロサ
4月17日(水) 復活のイエスをさがして 中川博道神父
5月15日(水) 「だれが一番偉いか？」 九里彰神父
10月30日(水) かそけきもの Br.原造
11月27日(水) あなたは世の塩である Sr.ロサ
12月18日(水) 主が生まれる私たちのうちに 中川博道神父

【土曜の黙想】（午後1時～午後6時）

- 5月18日(土) ”我”に立ち返る時 中川博道神父
6月29日(土) ゴールは近い Br.原造
7月27日(土) 「私は復活であり、命である」 九里彰神父
9月21日(土) み国が来ますように Sr.ロサ
10月26日(土) 「思い悩むな」 九里彰神父

【生活の中での霊的同伴】（金曜午後8時<夕食なし>～土曜午後4時）

- 3月15日(金)～16日(土) 九里彰神父

【一般のためのカルメル霊性】（午後5時～午後4時）

- 9月28日(土)～29日(日) 聖テレーズの黙想会 中川博道神父
10月12日(土)～13日(日) イエスの聖テレジア 九里彰神父
12月14日(土)～15日(日) 十字架の聖ヨハネ 中川博道神父

【青年の集い（ネット配信）】（午前10時～午後4時）

- 2月23日(土) 中川博道神父

【ゴールデンウィーク黙想会】 (午後5時～午前9時)

4月28日(日)～5月5日(日) **イエスとともに生きる基盤を探す** 中川博道神父

【四旬節の黙想】 (午後5時～午後4時)

3月9日(土)～10日(日) **新しい創造の時** 中川博道神父

【待降節の黙想】 (午後5時～午後4時)

12月7日(土)～8日(日) **「メシアのしるし」** 九里彰神父

【奉獻生活者の黙想】 (午後5時～午前9時)

5月23日(木)～6月1日(土) 九里彰神父

8月5日(月)～14日(水) 中川博道神父

8月19日(月)～28日(水) 九里彰神父

11月6日(水)～15日(金) 中川博道神父

12月27日(金)～1月5日(日) 中川博道神父

祭日のミサに参加するために

チェックイン午後4時以降可 チェックアウト午前11:30{講話なし 各食事つき}

【聖週間を祈る】

4月18日(木)～21日(日)

聖木曜日から復活祭まで またどの曜日からでも参加可能です

【クリスマス】

12月24日(火)～12月25日(水)

—その他皆さまが企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします—

☆お申し込みは電話でも受け付けておりますが、できるだけFAX、はがき、Eメールでお名前と連絡先を御記入の上、お申込み下さい。お電話はなるべく午前9時～午後5時の間をお願い致します。受付が休みの場合はその場ですぐにお返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせ下さる様をお願いいたします。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12

宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)

Tel 0774-32-7016 Fax 0774-32-7457

E-Mail: teresiauji@mountain.ocn.ne.jp

<http://www.carmeluji.sakura.ne.jp/>

金沢黙想案内

毎月第一日曜日 三馬教会 聖堂

14：30～ 講話

15：30～ ミサ（ラテン語聖歌）

土曜フレックスタイム静修

毎月第三土曜日（第二の場合あり）三馬教会 聖堂

14：00～ 講話

14：30～ ベネディクション・聖体祭儀

15：30～ サルヴェ レジナ 終了

沈黙の祈りのうちに神様と語らい、またご聖体のイエス様と
共に静かに憩いの時を過ごし、心をリフレッシュしましょう



カルメル霊性センター

〒921-8162

金沢市三馬3丁目324番地

カルメル会 三馬修道院

三上 和久神父まで

Tel 076-244-7788

諸所の企画案内



心のいほり 内観黙想センター
真命山 霊性交流センター
ノートルダム・ド・ヴィ
サダナ瞑想
ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院
慈しみ深き会
リーゼンフーバー神父キリスト教講座
詩編の会
レデンプトリスチン鎌倉修道院

※注)

諸所の企画記事は集約・編集しています。
記載には注意を期しておりますが、
詳細は各問い合わせにご照会下さい。
よろしくお願い致します。



諸所の黙想企画ご案内

※各黙想内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

心のいほり 内観黙想センター

いほり通信

2019年 早春号 第118号

藤原直達神父

暦では春を迎えました。

遅ればせながら、本年もどうぞ、よろしくお祈りいたします。クリスマスの祝い、年始の賀状、お見舞いなどを頂いたままで、お礼の御便りも出さずまいのご無礼を、どうかお許しください。お祈りのうちに感謝に変えさせてもらっておりました。

この二三年、体調が優れず、また寝屋川の「いほり(内観瞑想センター)」の建物の耐震性も危険な状態にあり、2018年春から西宮の聖母修道院(通称トラピスチヌ)のチャプレンとして移り住んでおります。

修道院は六甲山系のふところにあり、真言宗(空海)の由緒あるお寺(鷲林寺ジュリンジ)に隣接しております。修道院は「祈りかつ働け」とのモットーで、厳しい規律のもと、1500年来の聖ベネディクトの伝統を現代に生きる女子隠世観想修道院で、院内には約30名の姉妹方が共同生活しておられます。

トラピスチヌの森に移り、残された人生を、静かな祈りの生活と、来訪する内観黙想者の同行という奉仕に任じられたことに、感謝と喜びを持って過ごしておりました。しかし、夏頃から、疲労感・倦怠感が抜けず、老化や暑さのせいと思っておりました。

が、秋になって大腸がんとわかりました。早期発見・早期治療！年始から県立病院に入院・手術治療を受けました。現在、修道院に戻り、しばらくの療養的生活を続け始めております。

病人らしくそろりそろりとした日課で過ごしております。ミサと「聖務日課」だけの生活で、後はもぬけの殻のようですが、これも授かった貴重な時間と思い感謝です。

長い言い訳(近状報告)をいたしました。世相は困難さを増し、仏教の言う五濁悪世の相を思わせています。そのような中であっても、いやそれだからこそ、主イエス・キリストを救い主として信じて、その名を呼ぶ(称名)行に、更に専念していく恵みを願っております。若き頃からこの「イエスの御名の祈り」と「内観」は、主から直接促された私のための霊の小道であったとの想いが、一層、強まってきております。

キリスト教の源流である東方の教父・師父の霊性から学ぶこと…

他宗教にも含む霊的宝を巻き込み、人類の救いの完成に向かい、被造界の宇宙的なオメガ点・キリストに収斂する様子を瞑想させ…

このあたかも神の手繰り寄せる壮大な引き綱の如く、波立つしぶき音をたてつつ、大変化の最中のいま…

そして主の再臨の光は雲の彼方に顕現しはじめる…

このような夢で、2019年をはじめております。

2019年2月 藤原直達

※トラピスチヌに来られるならば内観同行は出来ます

「祈り」：神秘体験
キリストによって神との出会い

毎月第2木曜日（10:00～15:00）

指導者 フランコ神父

2月14日：コデノッティ・クラウディオ神父(ザベリオ会管区長)
個人またはグループでの黙想会
研修会も歓迎いたします(要予約)

- 1月10日 「わたしはある」（ヨハネ8:24.28）
2月14日 「わたしはこの世の光である」（ヨハネ8:12.12:46）
3月14日 「わたしは門である」（ヨハネ10:7-9）
4月11日 「わたしは良い羊飼いです」（ヨハネ10:14）
5月 9日 「わたしは復活であり、命である」（ヨハネ11:25）
6月13日 「わたしが命のパンである」（ヨハネ6:35.51）
7月11日 「わたしは道であり、真理であり、命である」（ヨハネ14:6）
8月 休み
9月12日 「わたしはまことのぶどうの木」である。（ヨハネ15:1-12）
10月10日 「わたしは…いつもあなたがたと共にいる」（マタイ28:20）
11月14日 「わたしはアルファであり、オメガである」（黙示録1:8）
12月12日 「二人または三人がわたしの名によって集まるところには、
わたしもその中にいるのである」（マタイ18:20）



申込先

真命山 諸宗教対話センター

865-0133 熊本県玉名郡和水町蜻浦1391-7

e-mail: shinmeizan@gmail.com

www.shinmeizan.com

講話と祈りのつどい

【2019年3月16日（土）】

「わたしはあなたがたを友と呼ぶ」



イエスはわたしたちを友と呼ばれます。
友は親しく秘密を語ります。
主はわたしたちに何を語ってくださるのでしょうか。

講話・祈り・分かち合い 2時～午後5時30分

担当 中山真里

場 所：ノートルダム・ド・ヴィ（東京・上石神井）



参加費：200円

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail notredamedevie.japan@gmail.co

サダナ瞑想 ～東洋の瞑想とキリスト者の祈り～

詳細、補充情報はホームページをご覧ください。

<http://sadhana.jesuits.or.jp/> ★申込み受付・・・開始日の8日前まで

コース	日時	指導	開催場所	申込み
サダナⅡ	3/20(水)17:30- 24(日)16:00	Fr植栗	小金井聖霊修道院	来間(くるま) 裕美子※ Tel 090-5325-2518 045-577-0740 sadhana12378@yahoo. co.jp
入門A	4/14(日) 9:30-17:00	Fr植栗	ニコラバレ修道院 1F (四ツ谷)	同上
リピーター の会 @那須	4/27(土)17:30- 4/30(火)14:00	Fr植栗	ベタニア修道女会 聖ヨゼフ山の家	同上
ダイアリー	5/2(木)17:30- 6(月)16:00	Fr植栗	上石神井無原罪聖 母聖霊修道院(練馬 区上石神井)	同上
サダナⅠ	5/23(木)17:30- 26(日)16:00	Fr植栗	汚れなきマリア修道 会 町田修道院 (町田市)	同上
沖縄サダナ Ⅰ & アド バンス	5/30(木)17:30- 6/2(日)16:00 ※通いも可能です	Fr植栗	愛楽園教会 (名護市済井出)	宮城(みやぎ) 鈴代 Tel 090-4471-6456 suzuyo.t.m@gmail.com

※申し込まれると確認メールが返信されます。確認メールが届かない場合は、090-5325-2518(来間)までお問い合わせください。

※不在の場合は、渡辺由子 Tel&Fax : 042-325-7554

◆サダナⅠ(入門A.B.C)

体の営みと想像とを生かして祈りを深め「神との出会い」と「心の解放」をめざします。

◆サダナⅡ

Ⅰをいっそう深める。身体・感・想像・自分史が、神との交わりのもと統合されます。

◆フォローアップ・・・サダナⅠを終えた方。

◆入門C・・・入門Aまたは入門Bを終えた方。



ノートルダム教育修道女会・唐崎修道院 (2019年)

◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1
Tel： 077-579-7580
Fax： 077-579-3804
Eメール： karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交通： JR 京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。
琵琶湖の方へ徒歩 約 13 分

◎ 日程：

A. 8日間の個人指導による黙想

初日は、18時の夕食で始まり、最終日は昼食で終わります。

- ① 5月 5日(日)～ 5月 13日(月)
- ② 8月 14日(水)～ 8月 22日(木)
- ③ 10月 6日(日)～ 10月 14日(月)
- ⑤ 12月 27日(金)～2020年 1月 4日(土)

B. 祈りの体験：週末3日間 (金曜日の夕食～日曜日の昼食)

【神との親しさの中で日常を生きるために】

- ① 2月 1日(金)～2月 3日(日)
- ② 2月 22日(金)～2月 24日(日)
- ③ 3月 15日(金)～3月 17日(日)
- ④ 6月 21日(金)～6月 23日(日)
- ⑤ 7月 12日(金)～7月 14日(日)
- ⑥ 9月 20日(金)～9月 22日(日)
- ⑦ 11月 15日(金)～11月 17日(日)

C. 講話 黙想 (奉獻生活者のため)

2019年 5月 30日(木) 夕食～6月 7日(金) 昼食 小暮 康久 師(SJ)

◎ 対象：信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者： 司祭、ノートルダム教育修道女会会員、その他

◎ 申込み： 1) 氏名(フリガナ) 2) 〒住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて

郵送、または、Faxで「黙想係」Sr.松本佳子へ申し込んでください。
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10日前までに申し込んでください。 先着順 11名です。

◎ その他： 司祭同伴の黙想会やグループ研修会のために修道院をご利用なされたい方はご相談ください。(但し、上記の日程と8月1日～8月9日、9月1日～9月7日を除きます。)

祈り：講話と実践

沈黙の内に神を求めて
—観想の祈りへの道—

場所：イグナチオ教会岐部ホール404号室
12月のみマリア聖堂（ミサあり）
14：00～16：00



くのり
指導：九里 彰神父（カルメル修道会）

【2019年予定】 聖書のみことばを通して、念禱してゆきましょう。

1月24日—まことの家族とは— **終了**

「わたしの母、わたしの兄弟とは…」—（ルカ8・21）—

3月21日 祈りと祈りの場

「わたしの家は、祈りの家でなければならない。」（ルカ19・46）

5月16日 人間の傲慢

「だれが一番偉いかという議論が起きた。」（ルカ9・46）

7月25日 神の愛と隣人愛

「わたしの隣人とはだれですか。」（ルカ10・29）

9月26日 信仰と救い

「あなたの信仰があなたを救った。」

（ルカ7・50；8・48；18・42）

11月28日 神の愛と回心

「人の子は、失われたものを捜して救うために来たのである。」

（ルカ19・10）

12月19日 謙遜と従順（講話の後、ミサ）

「お言葉どおり、この身に成りますように」（ルカ1・38）

*参加費無料（献金歓迎）

*問い合わせ先：042-473-6287 篠原

※各黙想会内容・日程等、詳細については各問い合わせ先に、ご確認ください。

【入門講座】

毎週金曜日 18時45分～20時30分

聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本
テーマを取り扱います。無料

3/1 仕事という人間の課題

—社会に寄与して働く

3/8 人間の苦悩—悪とは何のためか

3/15 死—その受け入れと克服

3/22 人生の完成—神の内に生きる

3/29 聖母マリア—信じる者の原型

【理解講座】

第1・3火曜日 18時45分～20時30分

聖イグナチオ教会信徒会館3階アルペホール
キリスト教の基礎知識を持っている方。
信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、
キリスト教の中心的テーマを探求します。無料
2年間のコース。途中参加・部分参加も可

[教会]

3/5 憐れみと愛の祝い—罪のゆるしとミサ

3/19 「聖徒の交わり」—世界の只中のキリスト

【土曜アカデミー】

下記(予定)の土曜日:

9時30分～12時、岐部ホール4階404、
各時代の文章を読んで、思想史一般とキリスト
教哲学・神学の相互関係を考察します。無料
キリスト教思想史に関心を持っている方。
プログラムの詳細は、別途配布。

参考書:K.リーゼンフーバー著『西洋古代・中世
哲学史』『中世思想史』平凡社ライブラリー
近代と現代におけるキリスト教と理性

3/2 ラーナー:現代におけるキリスト者(20世紀)

【神学読書会】

第2・第4木曜日:18時～20時

上智大学内S.J.ハウス、第5応接室。
『リーゼンフーバー小著作集』から霊性と
神学に関する文章を読んで、話し合います。
テキスト:第Ⅲ巻「信仰と幸い—キリスト教の本質」
随時、どなたでもご自由にご参加ください。
※祝日、8月全体、12/27は休み。

【会社帰りの黙想】

毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時

聖イグナチオ教会マリア中聖堂
信仰・宗派を問わず、どなたでも。
随時の参加・遅刻も可。お気軽に。無料
※祝日。8月全体は休み。

【祈りの集い】

下記の土曜日 13時30分～16時

上智大学内S.J.ハウス、第5応接室
講話、黙想、ミサがあります

3/16

【ロザリオの祈り】

上記同日のミサに続いて 16時10分～16時50分
クルトゥルハイム1階右テレジア小聖堂

【夕方のミサ】

下記の月曜日 18時～19時

上智大学内S.J.ハウス隣クルトウルハイム1階右
テレジア小聖堂

2/25、3/25

【坐禅会】

第1、第3月曜日：18時～20時

上智大学内クルトウルハイム1階左の部屋
2回坐り、間に講話。遅刻・不定期の参加も可。

※祝日、8月全体は休み

【黙想会】

上石神井 1泊7000円

3/9(土)10時～3/10(日)14時

申込みの締切りは、初日の10日前

—上記の日程に変更がある場合は、
信徒会館1F掲示板でお知らせします。—



《場所・お問い合わせ》

聖イグナチオ教会(四ツ谷駅前)

信徒会館3階

アルペホール TEL 03-3263-4584

クラウス・リーゼンフーバー神父

(上智大学名誉教授)

〒102-8571 千代田区紀尾井町7-1

上智大学S.J.ハウス

電話 03-3238-5124(直通)

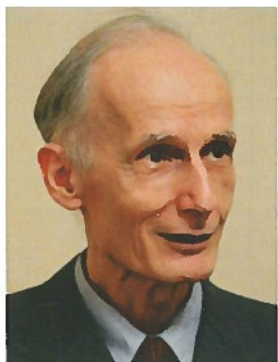
-5111(伝言)

Fax 03-3238-5056

※リーゼンフーバー神父様HPアドレス

http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/





クラウス・リーゼンフーバー小著作集

(全五巻) 四六版・434頁～628頁

各巻 本体 3,800～5,000 円+税

著者は日本における中世哲学研究を牽引し、広汎にわたるキリスト教思想史の著述や編集・出版を手がけてきた。宗教家としても、キリスト教信者のみならず信仰に初めて出会う一般社会人と広く向き合い、講座や黙想会などを開いてキリスト教の精神と実践、信仰における超越との関わりを伝えている。人間の自己理解から出発し、聖書と哲学的な理解とを構築して、キリスト教信仰と靈性を現代人にとって生き生きとした形で展開している。講義、執筆活動をとおして西洋古代・中世さらに現代哲学思想をわかりやすく説く。この著作集は40余年の著述活動による150余の小論考からなっており、靈的な信仰理解と人間の経験とを結びつけて互いに支え合うものとして示そうとするものである。

人生の意義の解明と存在への問い。人生をめぐる哲学的・思想史的・人間論的な諸観点のもとで、聖書に基づいて第一根源である神を中心に展開する。

		ISBN 定価(本体+税)
第1巻	I 超越体験 一宗教論 宗教の人間論的基礎付けを「意義への問い」という観点から考察した宗教哲学論文集。宗教的理解と経験がキリスト教的精神に基づいて絡み合い、人間の心を考察して全体の根源的な起源へ向ける。全11作、434p	9784862852151 3,800 円+税
第2巻	II 真理と神秘 一聖書の黙想 日常生活を貫いて人間とかかわる絶対的神秘を、聖書を紐解きつつ多面的な観点から浮き彫りにする。超越との関係を求める人に向けて、宗教的経験を解明する。全35作、544p	978-4862852175 4,600 円+税
第3巻	III 信仰と幸い 一キリスト教の本質 主の祈り、信条の命題に沿って信仰の全体像を解説。「山上の説教」をとおして人生における艱難辛苦にも焦点を合わせる。十字を切ることの意味など、聖霊の神学と靈性から信仰生活の深みを照らす。全38作、628p	9784862852205 5,000 円+税
第4巻	IV 思惟の歴史 一哲学・神学的小論 古代から中世のキリスト教思想史の考察の上に立脚し、現代における信仰をめぐる根本的な問いを洞察する。人間と神理解の可能性を新たに拓いて信仰生活の深みに掘下げる。全41作、448p	9784862852212 4,000 円+税
第5巻	V 自己の解明 一根源への問いと坐禅による実践 信仰との関わり方の薄い現代人に向け、自己への問いから発した人生の意義と超越への方向付けを見出す実践的な道筋を示唆する。「今」を中心とする存在論・時間論を展開した最終講義「時間です!」収録。全35作、470p	9784862852229 4,200 円+税

●リーゼンフーバー, クラウス [Riesenhuber, Klaus]

1938年ドイツ生まれ。1958年イエズス会入会。1967年ミュンヘン大学哲学博士。同年来日。1969年上智大学文学部哲学科専任講師。1971年東京で司祭叙階。1974年上智大学中世思想研究所所長(-2004)。1981年上智大学教授。1989年上智大学神学博士。国公立大学で客員・非常勤講師。放送大学客員教授。2009年上智大学名誉教授。現在は哲学的人間論および宗教哲学などの講座を開講。

知 泉 書 館

〒113-0033 東京都文京区本郷1-13-2 TEL: 03-3814-6161 FAX: 03-3814-6166

<http://www.chisen.co.jp>

ミサと晩の祈りをうたう集いへのおさそい

《復活節第三水曜日の典礼》

日時：2019年5月8日 水曜日

13時半 晩の祈りの練習

14時 歌唱ミサ

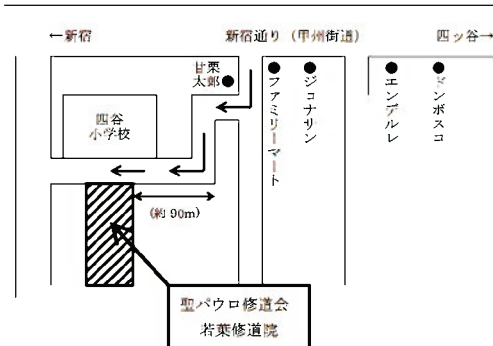
ひきつづき 晩の祈り（歌）（終了予定 16時頃）

司式：中川博道神父（カルメル修道会）

場所：聖パウロ修道会 若葉修道院

東京都新宿区若葉1-5

JR中央線/営団地下鉄 丸ノ内線・南北線 「四ツ谷」駅下車



＜道順＞

四ツ谷駅より

サンパウロ→ドンボスコ→
ファミリーマートを左折
甘栗太郎を右折
道なり後左折→道なり後右折
約90m直進
四谷小学校の正面

主催：「詩編の会」

「わたしの父の意志は、子を見て信じる者が永遠のいのちを保ち、
終わりの日に復活することである。」（当日のアレルヤ唱参照）

問合せ・連絡先：TEL/FAX 045-402-5131（藤井）

e-mail: shihennokai@gmail.com

召命黙想会

日時：2019年4月27日（土）9:30～16:00

開催地：レデンプトリスチン鎌倉修道院

（観想修道院）

指導司祭：ジャン・レイモンド・ジラルド 神父

（レデンプトール修道会）

対象：カトリック女性信徒で奉献生活を望んでいる
25歳以上（年齢相談）の独身の方

参加費：1,000円（昼食代）

申込み：住所・氏名・年齢・電話番号・所属教会を
記入の上、往復葉書でお申込みください。



〒248-0006

神奈川県鎌倉市小町3-10-6

レデンプトリスチン鎌倉修道院

Tel. 0467-22-3020



朝日カルチャーセンターの 通信深読「聖書に親しむ」へのご案内

「通信深読」は、「聖書深読黙想会」にさまざまな理由で参加できない方々のために考案されました。参加を希望される方は、下記の朝日カルチャーセンター通信講座課へお申し込みください。手続きがすめば、次のような手順でこの「通信深読」が行われてゆきます。

ファースト・ステップ

「個人素読」：毎月、朝日カルチャーセンターから指定された聖書深読箇所を、ひとりで繰り返し読み、み言葉を自由に黙想します。

セカンド・ステップ

「個人素読」の報告書作成：送られてきた用紙（B5用紙）に、深読箇所特に印象に残った節を二三ヶ所選び、番号と○や△や×などの記号を記し、「全」には、全体の印象を表す、ご自分の体験と結びついた具体的な名詞を、「照」にはみ言葉を実践する決意を示す動詞を書き込みます。さらに「所感」や「近況報告・質問」の欄に、ご自由に自分の考えや質問等を記入します。

サード・ステップ

（参加者から朝日カルチャーセンターへ送られた「個人素読」の報告書は、参加者全員のものまとめられ、講師へ送られます。）

講師が各参加者の「個人素読」の報告書に対しコメントし、深読箇所の「解説」（A4 2枚）と共に、朝日カルチャーセンターへ送り返します。

フォース・ステップ

コメントされた全員の「個人素読」の報告書（「近況報告・質問」はプライベートなこともあるので、削除されます）と「総合素読表」、そして講師の「解説」が冊子となり、各参加者に、センターから送られます。

* 費用：6ヶ月（20,360円）。納入は4月、7月、10月、1月。継続の場合19,130円。

* 講師：九里彰師（奇数月）、今泉健師（偶数月）

* 問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル

私書箱21号 朝日カルチャーセンター通信講座課

Tel: 03-3344-2527（直通）

『靈性センターニュース』

* 郵送お申込みのご案内 *

ご郵送は、基本的に1月から12月までとなります。
途中からお申し込みの場合は、お申し込みの翌月から12月までとなります。
例：6月申込の場合は、7月号～12月号（但し8月号は休刊）となり、
5冊となります。ご希望の月数×250円程度の献金を下記口座（新設）
へお振り込み頂ければ、幸いです。

郵便番号口座： 00910-6-333184
加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局

なお、振替用紙の通信欄には、「郵送申込」（何月から何月まで）、また氏名、
郵便番号・住所、電話、Fax等ご明記ください。
何かご質問等があれば、事務局の方にご連絡ください。

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山 39-12
カルメル会宇治修道院 「靈性センターニュース事務局」
Tel:0774-32-7456
Fax:0774-32-7457
《変わりました》 reisei@carmel-monastery.jp

「靈性センターへの献金」のお願い（上とは別）

「靈性センターニュース」は、7月より、宇治靈性センター事務局で編集、
印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担し
ております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座： 00910-6-333184
加入者名： カルメル靈性センターニュース事務局
なお通信欄へは「献金」とご記入ください。

編集後記

暖冬と言われているが、こちら宇治でもそれなりに寒い。朝の聖務が終わって、暖房のきいたコールス（歌隊所）から台所（カルメルの習慣で朝食は台所で立って食べる）へ移動する間の廊下は、シベリアのようになる（これは故マテオ・アダミーニ神父の口癖。「ここはシベリアです！」）。

これがまた何か月かすると、熱帯地方のような猛暑となり、「暑い暑い！」とフーフーするわけだから、不思議なものである。真夏になる前には、ジトーツと、だれもが不快を感じずる湿気が多い梅雨がある。この変化が耐えられず、神さまに絶えず不平を言っている人もいる。天国はどのような気候なのであろうか。天気予報はあるのであろうか。願わくは天国に行っても、行けたとしての話であるが、不平を言わないようにしたいものである。

太陽と月は神を賛美し、空の星は神をたたえよ。

雨と露は神を賛美し、すべての風は神をたたえよ。

夏の猛暑は神を賛美し、冬の厳しさも神をたたえよ。

氷と雪は神を賛美し、ジトーツとした梅雨も神をたたえよ。

（ダニエル書異本）

（P. 九里）



男子跣足カルメル修道会のホームページ

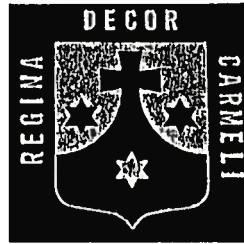
<http://www.carmel-monastery.jp>

Google：「カルメル会」で検索できます



男子跣足カルメル修道会
Order of Discalced Carmelites

霊性センターニュース掲載の情報も載っています



『靈性センターニュース』お持ち帰りの方へ
一冊 100 円程度の献金をお願い致します



~~~~製本／発送のご協力お願い~~~~

「靈性センターニュース」の製本/発送を、2017年7月号より宇治修道院で行う事になりました。発送作業は梱包・宛名ラベル貼りと確認チェック等です。皆様のご協力をお待ちしております。初めての方、不定期参加も大歓迎です。

次回の製本/発送日 **3月29日(金) 午前10時頃から**

**宇治修道院信徒会館**

※ご協力いただける方は、製本/発送日をご確認の上、お越しく下さい。

靈性センター事務局 ☎0774-32-7456